



轟木下 木村隆一

市川の前山地区にある「ハチノヘグリーンハイテクランド」とは、「ハチノヘ北インター工業団地」と「ハチノヘハイテクパーク」の総称です。ここは東北縦貫自動車道八戸線の八戸北インターチェンジ及び国道45号線に隣接したアクセスのよい工業団地で、多様な産業活動に対応した環境が整っております。

その中の「ハチノヘインテリジェントプラザ」は、産学官連携のもとに研究開発・研究開発支援・人材育成・情報提供等の事業を展開し、新技術・新産業事業等の創出を提供しております。また、近くには「青森県産業技術センター八戸地域研究所」もあり、機械金属関連の研究開発等を進める中核機関となっております。なお、当所の立地企業数は、60社です。



石碑をたずねて ⑧

1. 名称「ハチノヘハイテクパーク」

(題字は、中里信男元八戸市長)

2. 場所 ハチノヘハイテクパーク内(北インター工業団地1丁目)

3. 内容 「ハチノヘハイテクパーク」は、我が国第一号の頭脳立地事業で、関係各位の尽力により竣工できた。ここが八戸地域や、青森県の一層の振興に貢献することを祈念している。(下記の碑文を参照。)

4. 思い この広大な土地の多くを提供したのが轟木の鈴木與兵衛氏である。このように、鎌倉時代から所有していた個人の土地が地域のために活用されていることに対し、同じ町内に居住する者として、敬意を表している。また、この地は現在八戸市「北インター工業団地(1～6丁目)」になっているが、最近までは、八戸市市川町字「田ノ沢」「田ノ沢頭」であり、「多賀台」「松ヶ丘」に次いで、市川にありながら、住所に「市川町」という名前のない地域となった。発展を考えると嬉しいという気持ちと、また、何となく寂しい気持ちが同居しているというのが偽らざる心境である。(木村隆一)



〈碑文〉「ハチノヘハイテクパーク」は地域産業の高度化に寄与する特定事業の促進に関する法律に基づく**我が国第一号の頭脳立地事業**として平成元年に地域振興整備公団が開発に着手し、本日ここに竣工を見たものです。

栄えある竣工に当り、**本事業に尽力されました八戸等**の関係自治体、**鈴木與兵衛氏**をはじめとする関係各位に対し、深甚なる**感謝の意を表する**ものであります。

このハイテクパークが八戸地域はもとより、青森県の産業の頭脳拠点として地域の一層の振興に貢献することを祈念し、ここに八戸ハイテクパークの由来を記します。 平成3年11月13日 地域振興整備公団

※前号の「漁光大明神」で、資料「南部の碑は語る」に基づいて「鯨銚を白髭神社神社境内に埋めた」ことを書きました。が、盛岡在住で岩手民俗の会会員の吉田満氏(実家は浜市川のヤマジョウ)が「鯨の銚」と墨書された白木の箱と、畳の上に置いた銚の写真的コピーを送ってくれました。詳しくは、後ほど報告いたします。(木村隆一)

